

完了報告書（平成 22 年度）

提出者 森田次郎

提出年月日 2011 年 4 月 22 日

【プロジェクト名】

和文：地域社会における親密圏の再編と再創造に関する社会学的研究

英文：Researches about the Transformation and Reconstruction of Intimate Spheres in Japanese Rural Communities

【メンバー構成】

研究代表者：江南健志

幹事：森田次郎

メンバー：朝田佳尚

【ねらいと目的】（600 字程度）

近年、日本の農山漁村では「限界集落」という言葉が注目を集めている。生業や冠婚葬祭などの慣習の衰退、廃校や医療施設の閉鎖など地域社会の存続それ自体が困難となっているのだ。こうしたなか、地域内部における親密圏のあり方もまた急速に変容していると考えられる。昨年度までの本研究ユニットは、以上の問題意識をもとに三重県の東紀州地域でフィールドワークを行い、その結果を、社会の再編成の影響と地域住民による生活実践とが交錯する場としての地域社会という像にまとめてきた。具体的には、林業組合などの共同組織が衰退しつつあるなか、「地域再生」への取り組みも行われはじめており、同様の動きは農業や学校教育の領域でも確認できること、同時にそうした地域再生への取り組みを「互助」などの概念をもちいて分析する可能性を提示してきた。こうして、現代社会において地域の人々がいかに共同的な圏域を能動的に再構築しているかを分析してきた。本年度は以上のような研究成果を踏まえながら、各自が東紀州地域以外のさまざまなフィールドに赴き、現在の地域社会において既存の「地域」の枠組みをこえた社会的なネットワークがどのように成立しつつあるかを分析することにした。

【活動の記録】

江南健志, 2月4-5日, 三重県熊野市, 森林管理組合に関する聞き取り調査と資料収集.

江南健志, 2010年, 「農山村に関する研究動向——社会学を中心に」『農業と経済』昭和堂.

Morita Jiro, July 2010, “A Reassessment of Alternative Education in Contemporary Japan: The Dynamics of a “Free School” in Kyoto”, XVII ISA World Congress of Sociology, Gothenburg, Sweden.

森田次郎, 2010年9月, 「「不登校」児童生徒に開かれた学校空間の可能性」、日本教育社会学会、関西大学.

森田次郎, 2010年11月14日, 三重県, 地域行事における児童生徒と地域住民の交流に関する聞き取り調査.

Morita Jiro, December 2010, “The “Public” Aspect of Alternative Schools: A Comparative Study on Two “Free Schools” in Contemporary Japan”, the 3rd Next Generation Global Workshop, Kyoto, Japan.

森田次郎, 2011年2月11-13日, 東京都, オルタナティブスクールと地域社会の協働に関する聞き取り調査.

Yoshitaka Asada, July 2010, Neo-Liberalism and Communitarity, in 17th ISA World Congress of Sociology

朝田佳尚, 2010年11月26日, 神奈川県, 住民の自主防犯活動を積極的に行う自治会の会合に参加

朝田佳尚, 2011年2月20-21日, 神奈川県・東京都, 一連の防犯活動を推進した自治会の理事と行政担当者に対する聞き取り調査と現地の地誌的・歴史的な資料の収集

【成果の概要】（800 字程度）

現代日本の地域社会における親密圏と公共圏の再編成過程を検討するため、本研究ユニットでは各自の研究テーマにそってフィールドワークを実施した。以下がその概要である。

江南は森林管理をめぐる新たな「共同」あり方を考察するために、そのモデルケースとしておもに三重県でフィールドワークを実施し、森林組合の設立経緯について聞き取り調査をおこなった。こうした事例をとおして、消費者と生産者間の新たな紐帯が木材を通じていかに生じつつあるかを分析した。

森田は 2010 年 9 月から翌年 1 月にかけて、おもに京都府、三重県、大阪府、東京都にある公立学校で聞き取り調査をおこない、学校活動や学校運営のなかで近隣の地域住民が果たす役割を分析した。その結果、不登校などの多様な「経験」や生活上の「背景」をもつ生徒が数多く通う学校現場において、生徒間や教師-生徒間の人間関係が形成される際に、地域社会（住民）がその起点として重要な役割を果たしていることが明らかになった。

朝田は、近年の地域社会における防犯活動の広がりという点に着目し、主に神奈川県で聞き取り調査を行った。調査からは、新興住宅地でも三重県の農村と同様に高齢化と地域生活に対する不安が高まっており、その対応のために住民が積極的な地域活動を展開しつつあることが明らかになった。また、そうした活動を通して、住民が既存の地域組織を再編し新たなネットワークを形成しつつあることも明らかになった。

このように本研究ユニットは、昨年度までの東紀州地域での聞き取り調査の成果を踏まえながら、既存の地域の枠組みにとらわれない社会的ネットワークの存在（親密圏と公共圏の中間領域）について議論を発展させようと試みた。

【通信欄】

（研究代表者記入）

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input checked="" type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究		
経費	予算額	300	（千円）	実績額	300 千円



ISA World Congress of Sociology の学会会場の様子（森田）



防犯イベントでの炊き出しに参加した写真（朝田）